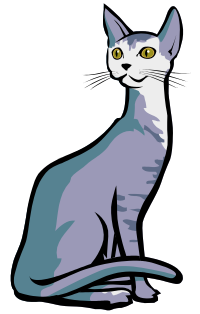


ワクチン(猫)

- *ワクチンは、病気の原因となるウイルスや細菌などを弱毒化したもので、これを接種することにより、その病気に対する免疫力を高め、感染を予防します。
- *ワクチン接種をしても、感染する場合がありますが、(抵抗力が弱っていたり、高濃度の病原体に接触するなど)、ワクチン接種をしておけば、実際にウイルスや細菌が体内に侵入してきても、発病を抑えたり、症状を軽減することができます。



伝染病予防ワクチン(混合ワクチン)

普段の生活において、感染する恐れのあるウイルスや、細菌による病気を予防するワクチンです。現在、1回の接種で、1~5種類の感染症を予防するワクチンがあります。混合ワクチンは予防する感染症の組み合わせによって、さまざまですが、当院では、4種混合ワクチン接種をおすすめしています。

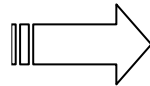
- ♣猫ウイルス性鼻気管炎
 - ♣猫カリシウイルス感染症
 - ♣猫汎白血球減少症
- (3種混合ワクチン)
- +
- ♣猫白血病ウイルス感染症
- = 4種混合ワクチン

伝染力が強く、感染し発病すると、白血病やリンパ腫などの血液のガンや、貧血、免疫不全などを引き起こし、高い確率で死亡してしまいます。特に外に行く猫では感染する危険性が高くなるので、4種混合ワクチン接種は大切です。

ワクチン接種プログラム

初年度

- 生後2か月 > 初回混合ワクチン接種
- 生後3か月 > 2回目の混合ワクチン接種



2年目以降

年に1度の追加接種

* ペットショップやブリーダーによっては、初回混合ワクチン接種を生後2か月以前に打つ場合があります。その際は、子猫の時期に3回混合ワクチン接種を行う場合があります。

ワクチンで予防できない感染症

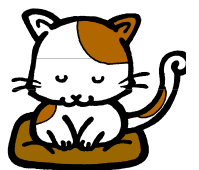
*猫伝染性腹膜炎

発病すると、お腹や胸に水がたまったり、臓器不全を引き起こし、高い確率で死亡してしまう病気です。

*猫エイズ(猫免疫不全ウイルス感染症)

外に行く猫に多く、ケンカなどによって伝染する病気です。感染してから発病するまで、数年以上無症状のことが多いですが、免疫不全状態が進行すれば、口内炎などの慢性疾患や、貧血などさまざまな経過をたどり、死亡してしまいます。

♣猫エイズ、猫白血病は、院内の血液検査で、現在感染していないか確認できます。



- *猫が感染してしまう病気は、軽度ですむものから、命に関わるものまでさまざまあります。
- *特に外に行く猫では、感染する危険性が高くなります。
- *室内飼いの猫でも、脱走したり、入院やペットホテルの際、また、人間の服や靴などに付着したウイルスから感染する可能性もあります。
- *健康に生活するために、室内飼い、ワクチン接種をおすすめしています。